

# 園芸古書の解説

## ～岩佐蔵書より～

岩佐園芸研究所

岩佐吉純

(「花葉」22号p61より続く)

### 5-1) *Nova Plantarum Animalium et Mineralium Mexicanorum Historia* (写真16, 17)

Hernandez, Francisco (1514-1587) 著

ヘルナンデスはスペインのフィリップ2世の侍医。1570～1577年の7年間、Flora と Fauna の研究調査に出かけ、メキシコに4vol.の記述と、10vol.の挿画の記載のコピーを残した。スペインに戻ったヘルナンデスは報告書を出版すべく王に提出したが、エスコリアル宮殿に保存され、彼の生存中には出版されなかった。1651年ローマでようやく出版され、世界初のダリアとウチワサボテンの記述といわれたが、ダリアについては<sup>6)</sup>のパディアヌス・マヌスクリプトのファクシミリ本が1940年に出版され、2番目の記述となった。(写真

18) 31p. Acocotlis、(写真19) 372p. Cocoxochiti で、明らかに八重咲きが描かれているので、論議を呼んでいる。野生の原種では八重咲きをみることはないからである。

### 6-1) *Badianus Manuscript* (写真20)

Emmart, E. Walcott (1940 ファクシミリ本) 著

パチカン宮殿の図書館で忘れ去られた一つのコーナーにあったのをProf. クラークが発見した。Martinus de la Cruzの本を Juanne - Badianus がラテン語に翻訳した1552刊の本である。(写真21) T59 Cohuanenepilli は *Dahlia coccinea* と考えられる。

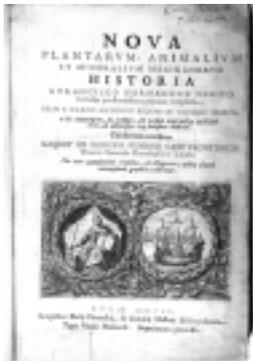


写真16



写真17



写真18



写真19

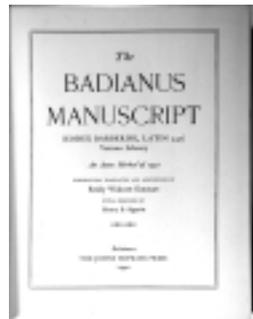


写真20



写真21

### 7-1) *Icones Et Descriptions Plantarum* (写真22)

Caranilles, Ant. Josephi (1744-1804) 著

1798年にメキシコ植物園の Don Vincente Cervantes がスペインのマドリッド植物園長に種々のメキシコ市

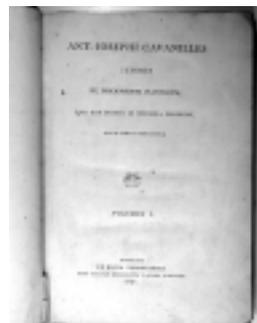


写真22



写真23



写真24



写真25

近辺の植物の植物体を送った。その研究をパリから来たカバニールがあたり、vol.1 (写真23) T80 *Dahlia pinnata*、(写真24) T14 *Cosmos bipinnatus*、(写真25) T81 *Zinnia violacea*、vol.3 (1795~96刊) T265 *Dahlia rosea*、T266 *D. coccinea* 等、多くのメキシコ産植物が描かれた。なお、ダリアの原種については Dr.Hans Hansen (コペンハーゲン大学植物園) の研究の結果、*D. coccinea* の野生に *Tetra* があり、1996年に新しい種と認められた *D.sorrensenii* が *Tetra* の野生種で、その自然交配の結果、*D.pinnata*、*D.rosea* 等がみられ、古い時代にこの両種の自然交雑の後代があり、それらがスペインに送られたらしいと推察され、*Tetra* のため、変異が非常に早く拡がったし、分離がみられたらしい。

#### 8-1) Curtis Botanical Magazine or Flower Garden Displayed

Curtis, William (1746-1799) 著

カーティスはロンドンのナーセリマン・リンネ協会創立者の一人・叔父の薬種商の徒弟、後 St.Thomas 病院の薬種商・1779年ランベスにロンドン植物園を開園(現ウォーターloo 駅近く)。その趣意書には“植物の医薬の効能のみならず、農業工業生産に役立つ植物の有用知識の普及をめざす”とあったとのこと。ボタニカルマガジンは1787年2月創刊。毎月1シリング、3枚のカラー版をつけて発売。プラントハンターのマッスンが南アフリカで活動し、多くの植物をキュー植物園に送ったのが開花し、この雑誌を飾ることができた。カーティスは14巻の出版中に死亡した。

カーティスの死後、フッカー、ウィルソン等がその志をついで編集にあたり、1983年183巻で一応の区切りをつけた。後 Kew マガジンとして1984年から出版されたが、1995年12巻から再びカーティスボタニカルマガジンとして、現在20巻、マーチン リクスが編集に

あたって継続されている。

vol.1 T8 (写真26) *Helleborus niger*

vol.4 T119 (写真27) *Strelitzia regina* (別刷2ページ大)

vol.96 T5813 (写真28) *Dahlia imperialis* 帝王ダリア

Kew Magazine (写真29) vol.4 part3 T82 (1987) (写真30) *Clematis marmoraria* ニューゼalandにて発見されたつるのないクレマチスの新種が掲載された。



写真26



写真27



写真28



写真29

写真30

9-1) Hortus Kewensis (写真31)

Aiton, William Townsend (1731-1793) 著

父 William Aiton はチェルシー葉草園のミラーのアシスタント・5,500種のキュー植物園の目録を Hortus Kewensis として3巻にまとめ、1789年刊行。父のもとでアシスタントを務め、RHS創業者の一人・11,000種のKewの植物を5巻のリストにまとめて刊行。

vol.4 (写真32) 159p. Pelargonium だけで102種がリストされ、内マッソンが南アフリカから47種を送ったことが記されている。



写真31



写真32

10-1) The Botanical Cabinet Colored Delineations of Plants from All Countries 20vol. (写真33)

Cornrad Loddiges & Sons Conrad Loggiges (1739?-1826) 著

Cornrad はオランダ人で、Hockey Nursery を買収・John Bostram からアメリカ産の植物を購入し、英国に紹介したことで知られる。

vol.1 (写真34) T71 Delphinium chinensis (1818)

vol.10 (写真35) T916 Primula sinensis (1824)



写真33



写真34



写真35

10-2) Catalogue of Plants in the Collection of Conrad Loggiges & Sons (写真36、37) 1823年刊

George Loggiges (1786?-1846) 著

George は蒸気のガラス室を考案し、洋ラン栽培の効率化を最初に図った人。農場の経営と Botanical Cabinet の監督を続けた。カタログには約800の品種がリストされている。



写真31

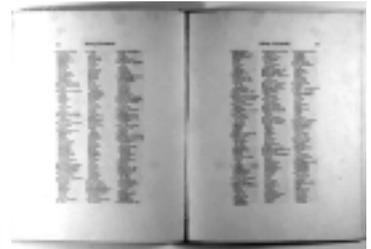


写真37

11-1) The Florist Directory, A Treatise on the Culture of Flower 1822 刊

Maddock James (父) (1715-1786)

Maddock James (子) (1763-1825)

Maddock は Walworth Nursery を創業。1765～75年既に価格表を発行していたといわれる。附としてダリアの栽培が見られる。



写真38



写真39



写真40



写真41

p.9 (写真38) *Dahlia superflua rubrapleno*  
1808年にはダリア八重咲が育成された記録がある。

p.3 (写真39) *Tulip & Anemone*

チューリップは Bizarre 咲、アネモネ・コロナリア八重咲。この頃球根を分球して増殖し、品種となっている。日本の吹詰咲赤は原名ドンファンときいている。

p.4 (写真40) *Carnation Scarlet bizard, Crimson bizard*

p.5 (写真41) *Carnation Pink picotee, Laced pink*

注：カーネーションはフローリストの花の一つ。プリムラ、アネモネ、ラナンキュラス、ヒアシンス、スイセン、チューリップ、ナデシコの8種をフローリストの花という。労働者の庭で多くの時間をかけて栽培、改良したという。スコットランド ペズリーは特にカーネーションの複雑なパターンを改良し有名。

12-1) *Flore des Serres et des Jardins de L'Europe*  
23vol. 1845 ~ 1883年で完成。(写真42)

Van Houtte, Louis Benoit 著 (1810-1876)

Van Houtte はベルギーの園芸の父といわれる園芸家。ブラジル、グアテマラ、ホンジュラス、ケープベルデ諸島から植物を集め、中国、日本、アメリカ、ヨーロッパ全土からコネクションをもった。

Gendbrugge 農場で大発展。朝2 ~ 3時から夜8時まで

で働いたといわれ、グロキシニア、アザレア、椿、球根ペゴニアを特に改良した。

T199 ~ 203 (写真43, 44, 45) (1847) *Victoria regia*

T239 ~ 242 (写真46) (1847) *Azarea indica Exquista*  
(写真47) *A.i. striata formossima*

T293 ~ 294 (写真48) (1847) *Rhododendron javanicum*

注：Victoria regia (= *V. amazonica*)

ドイツのヘンケがボリビアで1801年発見。フランスのボンブラン、同じく1820年ボリビアで観察。英国リンドリーは1857年完全なモノグラフ発行。英国パクストン、1848年11月チャッツワースで開花させる。



写真42



写真43



写真44

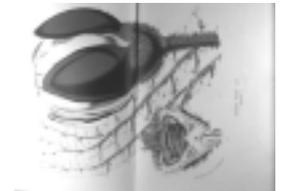


写真45



写真46



写真47



写真48

(「花葉」24号に続く)